

とっとり Now

Spring 2023

人に故郷に貫いた
グローバルな愛

澤田廉三と澤田美喜

特集

日本の伝統文化、絶やさない
心意氣光るBUNKA部

巻頭
特集

とつとり Now

Spring 2023

開運おかげ
詣で
因幡と伯耆の神社

東郷神社(東京都)

2

卷頭
特集

人に故郷に貫いたグローバルな愛 澤田廉三と澤田美喜

4



卷頭特集：初代国連大使を務めた澤田廉三と孤児施設を創設した澤田美喜

TOTTORI
おもしろ発見手帖

個性あふれる狛犬たち

14

ここにこの人
Human Life

現代アーティスト 井田 幸昌

15

企業紹介

株式会社エモーションズワーク

18

鳥取のうま味

贅沢さ満載のスパイスカレー

19

特集

日本の伝統文化、絶やさない 心意気光るBUNKA部

20

Voice・読者プレゼント・編集後記

26

□「カメラアイ」「きらり匠人」「VIVA!トットリLIFE」は休みます。



特集：息を合わせ合奏練習に取り組む箏曲部（鳥取県立米子西高等学校）

●表紙イラスト
池平 徹兵
いけひら・てっふい

1978年福岡県生まれ。島根大学卒。
東京オペラシティアートギャラリー-projectN、
岡本太郎現代芸術賞展、VOCA展などに出展。

137号表題『氷河期が終わる』

「潮風の丘とまり」(湯梨浜町)の恐竜のオブジェたちと、オオサンショウウオを合わせて、氷河期を終えた恐竜くらい春の有り難さを喜びたいと願いを込めた。 キャンバス/油彩

『とつとりNOW』が毎号届く
「ふるさと来LOVEとつとり」
会員を募集中！

入会
年会費
無料豊かな森の中に凜とたたずむ
東郷神社の社殿

えにし 鳥取との縁深い東京の神社

東郷神社 東京都

人の住む土地と、神々の鎮まる土地には境界があり、その印として鳥居が立つ。外側を「境外」、内側を「境内」と呼ぶ。神社の建つ場所には、古代から人が立ち入れなかつた土地や、中には大名屋敷の庭園を転用したものもある。

鳥取藩主・池田家の別邸「原宿屋敷」(東京都)に建てられた東郷神社がそのひとつ。原宿屋敷は、現在のJR原宿駅にほど近い一帯に広がり、総面積は東京ドーム2.5個分に相当する3万8千坪。12代藩主池田慶徳が「鴨池」(※)を造成し、鷹狩が催されたほど広大だった。



鴨池の一部が今も「神池」として残っている

ご利益】 勝運、学業成就、恋愛成就
【開運アイテム】 勝札

**ご利益
&開運
アイテム**

今では、周囲に高層ビルが立ち並び、すっかり変わったよう見えるが、当時の面影をしのばせるものがいくつか残る。その最も大きなものが東郷神社境内の豊かな森だ。さらに北参道に立つ御神木や、原宿外苑緑道の森も、原宿屋敷ゆかりの木々で、鴨池の一部も「神池」として残っている。

同じように、熊本藩主の別邸を中心の大規模に造苑された神社が東郷神社の西にある明治神宮だ。境内には、初代藩主・加藤清正ゆかりの「清正井」があり、この湧水は小川となって「神池」へと注ぎ、2つの社は水で結ばれていた。しかし、この川は今では埋められ、小道となつてわずかにその名残りを伝えるだけである。

※鴨池||狩獵のために整備された池

文・写真／角田 治
協力／原宿東郷記念館、新宿下落合氷川神社

高層ビルの間に樹木が青々と
茂る原宿外苑緑道

つのだ・おさむ グラフィックデザイナー。神仏探訪家。『山陰の神々 古社を訪ねて』(山陰の神々刊行会)など、神社にまつわる書籍の取材・執筆・撮影。

神社情報
03-3403-3591

社号:東郷神社 所:東京都渋谷区神宮前1-5-3

世界戦争が横行した20世紀。

列国のパワーバランスが複雑に変化する国際社会の第一線で、
日本の地位確立に尽力した外交官が、岩美町出身の澤田廉三。

そして占領期の日本で大きな社会問題となった

混血孤児の救済に立ち上った女傑、それが妻の美喜だ。

混乱の時代に郷土への愛、人への愛を貫いた

2人のストーリーを追う。

文／鳥飼 明子 写真／田中 良子

澤田美喜とエリザベス・サンダース・ホームの子どもたち ■



人に故郷に貫いた グローバルな愛

初代国連大使

孤児施設創設者

澤田 廉三と澤田 美喜

澤田廉三年譜

※赤字は澤田美喜

1888年	父信五、母久子の三男として鳥取県浦富村（現岩美町浦富）で出生
1901年	美喜、岩崎久彌・寧子の長女として出生
1903年 15歳	廉三、鳥取教会で洗礼を受ける（洗礼名：アブラハム）
1907年 19歳	県立第一中学校卒業
1910年 22歳	第一高等学校卒業
1914年 26歳	東京帝国大学法科大学フランス法律科卒業 高等文官試験・外交科合格 外交官補（中華民国）、 高等官七等、從七位
1916年 28歳	フランスへ赴任
1917年 29歳	高等官六等、正七位
1919年 31歳	講和全権委員随員 大使館三等書記官（フランス）
1920年 32歳	高等官五等、從六位、勲六等旭日章（対独平和条約、 大正四乃至九年事件）第一回国際連盟総会日本国代表随員
1921年 33歳	ワシントン会議日本国全権委員随員
1922年 34歳	公使館三等書記官兼領事（亞ブエノスアイレスほか） 岩崎美喜と結婚
	公使館二等書記官兼領事、高等官四等、正六位
1923年 35歳	長男・信一、亞ブエノスアイレスで誕生
1924年 36歳	勲五等旭日章 公使館二等書記官（中華民国） 次男・久雄誕生
1925年 37歳	関税特別会議（北京）日本国代表随員 公使館一等書記官、 治外法権委員会（北京）日本国委員随員 三男・晃誕生
1926年 38歳	勲四等瑞宝章 外務書記官、電信課長
1927年 39歳	宮内省御用掛
1928年 40歳	長女・恵美子誕生
1930年 42歳	大使館一等書記官（イギリス）
1931年 43歳	正五位
1932年 44歳	大使館参事官、高等官二等 フランスへ赴任 国際航空委員会日本国代表者
1933年 45歳	勲三等瑞宝章
1934年 46歳	米ニューヨーク総領事
1936年 48歳	従四位 高等官一等 大使館参事官（満州国） 日滿経済共同委員会日本国委員
1938年 50歳	臨時外務省事務從事 勲二位柱国章（満州国） 外務次官、企画院参与、対満事務局参与
1939年 51歳	特命全権大使（フランス）正四位 勲二等瑞宝章
1940年 52歳	勲二等旭日章（支那事変）依願免本官、従三位
1943年 55歳	外務省嘱託 特命全権大使（ビルマ）
1944年 56歳	外務次官
1945年 57歳	依願免本官、外務省嘱託
1948年 60歳	解嘱託 美喜がエリザベス・サンダース・ホームを創立
1953年 65歳	特命全権大使（在ニューヨーク国際連合日本政府代表部）
1955年 67歳	外務省顧問
1957年 69歳	日韓会談主席代表（～1958年）
1964年 76歳	勲一等瑞宝章
1965年 77歳	鳥取県政顧問（～没年まで）
1970年 82歳	廉三死去 美喜（79歳）死去
1980年	

10代の頃の廉三（左）★



そうした環境もあって鳥取県立第一中学校へ進学すると、鳥取教会で洗礼を受け、宣教師バートレットから英語を学び始める。これが外交官を志望するきっかけとなった。東京帝国大学法科大学フランス法律科を卒業すると外交官試験に首席で合格。4歳年上の兄・節蔵と共に外交の世界で活躍するようになる。

10代の頃の廉三（左）★



澤田 廉三

SAWADA RENZO

澤田廉三は、1953年国際連合（国連）の初代日本大使に任命され、政府代表として米・ニューヨークへ渡った。当時65歳、第二次世界大戦後に公職追放され外交から離れていたが、流ちょうな英語とフランス語を駆使し、世界各国と折衝してきたその経験を買われての抜擢だった。

当時、日本は国連に正式加盟しておらず、オブザーバーとして出席するのみで、発言権も投票権もない。52年に加盟申請をするも、ソビエト

が、何ヵ月もかけて関係性をほぐし、正式加盟への道筋をつけた。56年に加盟決議が採択される前に大使の任を解かれたが、廉三の根回しがあって実現したのは確かだ。

1888年、澤田家の三男として生まれた。父・信五は岩井郡浦富村（現・岩美郡岩美町）の村長、県議会議員など政界で活躍した後、北海道で漁業や牧場経営を手がけていた。だから我が子にも、「世界を舞台に活躍してほしい」とよく言い聞かせていた。母の久子は多忙な父に代わって家庭を守り、愛情深く子どもたちを育てた。浦富基督教会を設立し、自宅を日曜学校に開放して啓蒙活動も行っていた。

廉三の功績や岩美町に関する歴史を長年にわたって語り継ぐ油浅さん

国連への正式加盟を根回し

ソ連代表者は、当初、あいさつさえ交わさず、お互いに見て見ぬふりをする微妙な関係。自分の立ち振りを観光客に案内している。

連邦（ソ連）の拒否権発動により実現しなかった。「そこで廉三は、ソ連の代表者らと心を通わせる方法を模索し、緻密なロビー活動（※）を行つたんです」。そう話すのは、岩美町ガイドクラブ代表の油浅郁夫さん。地元の偉人・澤田廉三の功績について調べ、町内にあるゆかりの地を観光客に案内している。

ソ連代表者は、当初、あいさつ

さえ交わさず、お互いに見て見ぬ

ふりをする微妙な関係。自分の立ち振

りを観光客に案内している。

ソ連代表者は、当初、あいさつ

さえ交わさず、お互いに見て見ぬ

ふりをする微妙な関係

終生愛してやまぬ故郷



米ニューヨーク総領事時代の廉三と美喜 ■

性分が正反対のパートナー

1916年、在フランス日本大使館在勤。この間には第一次世界大戦から戦後の講和会議や、国際連盟第1回総会に日本代表随員として参加。21年3～9月には、ヨーロッパ外遊でパリに1ヶ月間滞在した皇太子（後の昭和天皇）の通訳兼案内役を務めた。27～30年も御用掛（※2）を務め、昭和天皇と親しくした。フランスから帰国後、三菱財閥3代目総帥である岩崎久彌の長女・美喜との縁談が持ち上がる。岩崎美喜は財閥令嬢らしからぬ振る舞いで相手を驚かせ、破談になるように仕向けていたが、廉三との縁談は違った。海外生活への憧れとキリスト教への興味が勝ち、22年7月に結婚。穏やかな廉三、勝気な美喜と正反対の2人だが、互いを尊重し合う良きパートナーとなっていく。

※2 御用掛＝宮内省などの命を受けて用務を担当する職

世界を飛び回り、常に日本の外交の中枢に立っていた廉三だが、「愛國は愛郷より」と、故郷・浦富を思う気持ちは人一倍強かった。鳥取一中時代は、鳥取市内に下宿していたが、週末ごとに20キロの道のりを歩いて帰ってきたほど。外交官になってからも機会あるごとに帰郷。岩美駅に着いて列車を降りると、「おお、いつ帰つてもええな」と大声で叫んでいたそうだ。

講演会を頼まれれば快く引き受け、県内各地に出向いた。油浅さんは、自分が通う小学校に廉三が講演に来た日のことを、よく覚えている。当時の校長が『宮中儀式』の時の大礼服を子どもたちに見せてやつて欲しい』と依頼したところ、応じて欲しかった。『フランス語を知っているかい』と、簡単な言葉を教えてくれたのも楽しかった」と懷かしむ。



米ニューヨークで2・26事件のニュースを伝える新聞を読む廉三（1936年）★

俳句を好んだ廉三は、故郷を詠んだ句も多い。また地元からの要請で『浦富小唄』を作詞作曲したことも。さらに「浦富はわが愛人、わが恩人」などと、あふれる郷土愛の言葉が手紙や隨筆などにも残っている。

70年12月、東京都内の会合中に

脳梗塞で倒れ、82歳の生涯を閉じた。穏やかさの裏に秘めた情熱、気さくな人柄を表すエピソードは、功績とともに今も語り継がれている。



初めての仮在勤時代、パリの凱旋門前に立つ廉三（1916年ごろ）★
写真右は2度目の仮在勤時代の夫妻（1933年ごろ）■

廉三の生涯を小説に、ドラマ化を目指す

もし澤田廉三の生涯がドラマになったら、どれほど面白いものになるか。

伝記小説『愛郷 外交官澤田廉三の生涯』が2020年8月、出版された。著者は、岩美町出身の片山長生さん。出版のきっかけは、「鳥取県を舞台に！歴史大河ドラマを推進する会」（17年発足）に、外交官兄弟の澤田節蔵と廉三、妻・美喜の3人を主役にした物語を提案したこと。これが同会の大河ドラマ誘致を目指す初推薦作品に選ばれた。

同会は、鳥取県の優れた歴史・文化を発掘してドラマ化することで、地域活性化を目指している。同会共同代表で地域研究家の内田克彦さんらが、そのあらすじを持ってNHK鳥取放送局に



「推進する会」の内田さん（左）と本を執筆した片山さん

鳥取県を舞台に！歴史大河ドラマを推進する会



片山さんの著作『愛郷 外交官澤田廉三の生涯』と「推進する会」のチラシ

要望したところ、「原作があるか。本があれば何よりだ」との回答だった。

片山さんは長年、高校の社会科教師を務めてきたことで史実には詳しいものの、歴史本執筆の経験は皆無。それでも「明治・大正・昭和の時代を本格的に描いた大河ドラマが今までない」との思いもあり、一念発起。仲間を集めて研究会をつくり、廉三に焦点を当てたストーリーに変更して小説を書き上げた。

「近代史と照らし合わせると面白く読めるはず」と片山さん。出版されて2年、英訳の話もあると顔をほころばせる。ドラマ化が実現し、廉三たちの物語が世界へ羽ばたくことを期待したい。

問 鳥取県を舞台に！歴史大河ドラマを推進する会
URL <https://tottoritaiga.wixsite.com/tottoritaiga/>

占領期、混血孤児の悲劇

澤田 美喜

SAWADA MIKI

1948年2月、澤田美喜は強い覚悟をもって、連合国軍駐留兵士と日本人女性との間に生まれた混血孤児を保護・養育するための施設「エリザベス・サンダース・ホーム」（以下、ホーム）を神奈川県大磯町に創設した。イギリス人女性・サンダー

さんの遺産をもとに創設されたことが、名前の由来だ。戦後の混乱が続く46年、街の裏通り、劇場の中、川などあちこちで、混血孤児の遺体が捨てられていた。美喜も何度か目の当たりにし、衝撃で目を覆う。ある日、混んだ夜行列

車に乗っていると、真上の網棚に風呂敷包みがあり、不審に思った警官が中身を確認、するとそれは新聞紙にくるまれた肌の黒い赤ん坊の遺体だった。美喜は驚き、悲しさとも悔しさともつかぬ感情がこみ上げ、体が震えた。



ホームを巣立つていった子どもたちや、養父母から届く便りの数々が、美喜の喜びだった（1963年）■

試練次々、立ち向かう母



パリ滞在中に出会ったダンサーで女優のジョセフィン・ベーカー（左）は、美喜の生涯の友となった。写真は彼女が子どもを養子として引き取りに来た時の様子（1954年）■

大磯の別荘を拠点にしようと考えたものの、財閥解体（※3）によって接収されており、GHQ（※4）や政府は、「約400万円を半年以内に支払え」と美喜に言いわたす。到底、工面できる額ではないが、美喜は諦めない。自分の持ち物で売れそうな物はことごとく売り、さらにアメリカの友人・知人に宛てて5千通以上の手紙を書き、寄付を募った。資金集めに奔走した結果、見事、期限までに全額を納めたのだ。

こうして美喜は、混血孤児たちの母となつた。ホームが開くとすぐに子どもたちが集まってきた。最初の1年間は街中や路上などに捨てられた赤ん坊がほとんど。皮膚病などの病気を患っている子、障がいのある子もいた。美喜は全ての子を受け入れ、断ることは一度もなかつたといふ。

信念に従つて前へと突き進む美喜に、しかし試練は次々と襲いかかる。特に心を痛めたのは、世間からのひどい差別と誹謗中傷、子どもたちに向かられる奇異の目。心ない言葉や視線にさらさたくない、明るく伸び伸び育つてほしいと願つも、時代がいくら進んでも、それがなくなることはなかつた。



当時のエリザベス・サンダース・ホームの玄関口 ■



澤田美喜記念館。申し込めば館内の見学可能 ★

エリザベス・サンダース・ホームと澤田美喜記念館

【エリザベス・サンダース・ホーム】

問 社会福祉法人エリザベス・サンダース・ホーム
所 神奈川県中郡大磯町大磯1152
☎ 0463-61-0007
WEB <https://www.elizabeth-sh.jp/>

【澤田美喜記念館】

問 澤田美喜記念館
所 神奈川県中郡大磯町大磯1152
☎ 0463-61-4888 圖 10時～15時
※新型コロナウイルス感染症対策のため要予約
休 Webサイトの開館スケジュール参照
WEB <https://www.elizabeth-sh.jp/memorialmuseum/>

今も残る美喜の想い、 全てを捧げた愛の園

JR大磯駅を出ると、通称「岩崎山」といわれる高い丘に繁る緑に包まれた。丘の向こうは太平洋、潮薰る風を感じながら左へ進むと、すぐに「澤田美喜記念館」「エリザベス・サンダース・ホーム」の表札を掲げた正門へたどり着く。

80段の石段を上った先にある記念館には、「木彫りのマリア母子像」や、反射した光の中にイエスキリスト像を映し出す「魔鏡」など、美喜が約40年にわたり日本各地を巡って収集した隠れキリスト教の遺物や関連する品々が収蔵され、その一部を1階の展示室で見られる。

ホームの運営が困難に見舞われるたび、美喜はこれらの遺物と向き合って往時のキリスト教の苦難を思い、自らを奮い立たせて神に祈ったという。

ホームは、丘の下を通る約100㍍のトンネルをくぐる。児童養護施設と幼保連携型認定こども園が併設され、今も子どもたちの元気な声が響きわたっている。美喜の大きな愛に包まれながら――。

警官は美喜が赤ん坊を捨てたと勘違いし、罵声を浴びせる。別の乗客の言葉によって疑いはすぐに晴れたが、そのとき彼女は神のささやきを聞く。「たとえいつでもこの子の母とされたのなら、なぜ日本中のこうした子どもたちのために、その母となつてやれないのか」

美喜は寝食を忘れて祈り、10日間考え続けた。一度始めたら後には引けないし、家庭との両立は不可能だ。ついに覚悟ができたとき美喜は立ち上がり、夫の廉三にその決意を告げる。

「混血孤児のために自分の残りの人生を捧げます。どうか許してください」。45歳の時だった。

違ひし、罵声を浴びせる。別の乗客の言葉によって疑いはすぐに晴れたが、そのとき彼女は神のささやきを聞く。「たとえいつでもこの子の母とされたのなら、なぜ日本中のこうした子どもたちのために、その母となつてやれないのか」

警官は美喜が赤ん坊を捨てたと勘違いし、罵声を浴びせる。別の乗客の言葉によって疑いはすぐに晴れたが、そのとき彼女は神のささやきを聞く。「たとえいつでもこの子の母とされたのなら、なぜ日本中のこうした子どもたちのために、その母となつてやれないのか」



芯の強さと秘めた苦悩 長年の取材で浮上した横顔

「GI(アメリカ兵)の残した混血孤児を元岩崎別荘で育てることで、この問題を隠したいGHQに正面から立ち向かい、明らかにした美喜について書いてみたかった」。青木富貴子さんは、『GHQと戦った女 沢田美喜』(2015年出版)を著した理由をこう語ってくれた。

敗戦後、連合国軍によって占領された日本では、GHQに何をされようと文句ひとつ言えなかった。日本人は、総司令部があつた「第一生命ビル」(東京都)には近づけず、弁明もできず、多くのことが泣き寝入りに終わっていた。

そのうえGHQは事あるごとにホームの運営に難癖をつけ、ひばり誹謗中傷を浴びせてくる。たまりかねた美喜は公衆衛生福祉局長のサムス軍医大佐に直談判しようと乗り込んだ。二人の意見はまったく噛み合わず、口論になるとサムスは気色ばん立ち上がり、灰皿に手をかけた。美喜が靴を投げつけようかと思った瞬間、突然、非常ベルが鳴り響く。それで事なきを得たが、続けて対抗していたら、収監される可能性もあったという。

なぜ、ここまで強く立ち向かえたのか。青木さんは、約10年かけて何度も大磯のホームに足を運び、高知、東京、鳥取、スペインなども訪ね、ホームで働いていた人々や卒業生たち、美喜の家族など数多くの人に会って証言を集めた。

『GHQと戦った女 沢田美喜』の著者・青木富貴子さん



『GHQと戦った女
澤田美喜』
(2015年・新潮社)



鷺鳴荘の縁側にズラリと並んで
スイカにかぶりつく子どもたち ■

美喜の強さは「絶対に諦めない」気質の祖父・岩崎彌太郎(三菱財閥の創設者)のDNAを受け継いだために違いないが、それまで女の子に恵まれなかつた岩崎家で生まれ、これ以上ないほどの愛情を注がれて育つたからこそ、混血児の母となり、大きな愛を孤児たちに注ぐことができたのではないかと、青木さんは読み解く。

明日のミルク代もないほどの資金不足、世間から向けられる奇異の目と差別に絶望しそうな夜も多くあつたはずと、その苦悩や不安にも心寄せる。

「史実を並べるだけでは、真実は伝わらない。映像を浮かび上がらせ、感情を伝えるのが私の仕事」と言う。本につづられた青木さんの言葉を通して、美喜と彼女を取り巻く人々が見たであろう情景、胸に宿したであろう感情を追体験してほしい。

プロフィール／あおき・ふみこ

ニューヨーク在住のジャーナリスト、作家。東京都生まれ。雑誌の編集者や週刊誌記者などを経て1984年渡米。『ニュースウイーク日本版』ニューヨーク支局長を3年間務める。87年、作家のピート・ハミルさんと結婚。著書に『ライカでグッドバイ——カメラマン沢田教一が撃たれた日』『目撃アメリカ崩壊』『昭和天皇とワシントンを結んだ男——「パケナム日記」が語る日本占領』など、数多くのノンフィクション作品、ルポルタージュなどを発表。



澤田夫妻と長男夫妻、三男が眠る岩美町内の墓

- 『澤田廉三と美喜の時代』
編者／鳥取県立公文書館 発行／鳥取県
- 『ふるさと人物誌』
編集発行／岩美町教育委員会
- 『澤田の人びと 二人の外交官とその妻たち』
著者／高橋亮 発行／編集工房 遊
- 『感隨想』
著者／澤田廉三 発行／澤田廉三先生遺稿刊行会
- 『沙鷗吟草』
編集／沙鷗吟草編集委員会 発行／澤田美喜
- 『愛郷 外交官 澤田廉三の生涯』
著者／片山長生 発行・発売／「愛郷・澤田廉三」刊行会
- 『黒い肌と白い心—サンダース・ホームへの道』
著者／澤田美喜 発行所／株式会社創樹社
- 『シリーズ戦争孤児 ②混血孤児—エリザベス・サンダース・ホームへの道』
編集者／本庄豊 発行者／政門一芳 発行所／株式会社汐文社
- 『GHQと戦った女 沢田美喜』
著者／青木富貴子 発行者／佐藤隆信 発行所／株式会社新潮社

参考文献



美喜はホームの子どもたちを連れて毎年、熊井浜に訪れ、海水浴を楽しんだ ■

ただ夏の臨海学校だけは、人の目を気にせず開放的に過ごせた。その場所は、廉三の故郷・岩美町にある「熊井浜」。小高い山に囲まれた馬蹄型の小さな入江で、まるでプライベートビーチのよう。結

婚直後、澤田家の墓参に来た際、美喜はこの場所を一目で気に入り買い取った。その後、廉三が別荘「鳴莊」を建築、帰国時に家族で避暑に訪れるだけでなく、戦時中は疎開先にもなつた。

毎年夏になると、熊井浜に子どもたちの明るい声が響きわたつた。海水浴や魚釣りを楽しみ、縁側にみんな並んでスイカを食べた。この思い出は、きっと彼らの人生の支えとなつたに違いない。

息抜きは岩美の臨海学校



油浅さんらの管理で手入れされ
今も残る「鳴莊」



岩美町の熊井浜。大通りからはその存在が見えず、プライベートビーチのようだ



長年、澤田美喜に関する調査研究をしてきた小山さん

美喜とホームを調査研究する鳥取地域史研究会会長の小山富見男さんは、「大磯では怖い顔で子どもたちを叱る美喜さんも、ここでは一日中笑顔だったようですよ。大自然に癒やされたのでは」と話す。

ホームを始めて32年、1980年5月に美喜は、旅行先のスペイン・マヨルカ島で亡くなる。夫妻の墓所は浦富の海を望む丘にあり、長男の信一夫妻、戦死した三男の晃と共に静かに眠る。墓石に寄り添うように濃紅色のダイヤモンド・リリーが咲いていた。強く美しく生き抜いた美喜の人生を映しているかのようだった。



**“飽きない顔”的数々…
個性あふれる狛犬たち**

VOL.11

河根裕二さん

神社の社殿前に「阿吽」の一対で鎮座する狛犬。その顔をじっくり見たことがあるだろうか。空想上の守護獣像と言われ、県内にも多種多様で個性的な表情の狛犬がいるのだ。因幡地方の名石工「川六」(※)作の狛犬を研究する河根裕二さんに、その魅力を聞いた。

※川六=川瀬村(現鳥取市青谷町北河原)に住んでいた石工・尾崎六郎兵衛の作品の銘。

鷺峯神社（鳥取市鹿野町）

愛らしい癒やし系

鷺峯神社の御祭神・大國主命の神話。『兄神たちにイノシシを捕まえろと欺かれて殺された』とされ、そこから氏神たちが「イノシシ=獅子」を避けた説だ。一方、『鷺峯山と大山の神様の背比べ』伝説の中で、鷺峯山の神様を助けた犬が「狛」だったから、という説もある。

制作年／1860年12月
制作者／川六 所 鳥取市鹿野町鷺峯1061

神話と伝説に由来

賣沼神社（鳥取市河原町）

哀愁漂う飽きない表情

全国でも珍しいトラ型

賀露神社（鳥取市）

文・イラスト / 雲坂紘巳 (くもさか・ひろみ) 納豆が大好きなイラストレーター。1982年生まれ、鳥取県育ち。ぐるぐるした食べ物が好きなことから、屋号は「スタジオづるり」。WEB=<http://dururi.com>



いだ・ゆきまさ

1990年生まれ。鳥取県西伯郡日吉津村で育つ。東京藝術大学大学院油画修了。2016年現代芸術振興財団主催CAF賞にて審査員特別賞受賞ほか、数ある絵画賞を受賞。17年レオナルド・ディカプリオ財団主催のチャリティオークションに史上最年少参加。同年、株式会社IDA Studioを設立。18年には経済紙『Fobus JAPAN』が世界を変える30歳未満30人の日本人「30 UNDER 30 JAPAN」のひとりに選出。作品は国内外のコレクター、美術館に収蔵されている。

『Panta Rhei | パンタ・レイ—世界が存在する限り—』

□米子市美術館 2023年7月22日(土)~8月27日(日)
□京都市京セラ美術館 2023年9月30日(土)~12月3日(日)

<https://ida-2023.jp>



「夢の中の馬」(2015年、1640×1940mm)★

世界に羽ばたくアートの寵児

いる。やめたらその人たちに追いつかない」。そんな強い信念が、

井田さんを突き動かす。
『絵なんてわかってたまるか』
国内初の個展「パンタ・レイ」の

少しずつ絵が売れるようになり翌17年、アメリカ(ニューヨーク)に渡る。
「アート市場も大きく、作品でバリバリ活躍する現地のアーティストたちがまぶしかった」
日本では、多くのアーティストがギャラリーに所属してマネジメントを受けるが、海外ではより良い条件で仕事をするため、自分で会社を経営するケースも多い。刺

激を受けた井田さんは帰国後、起業を決意する。

「今日より明日」強い信念

現在は立ち上げた会社「IDA Studio」の代表と作家の二足の草鞋を履く忙しい毎日。今後の目標は、「世界を取ることだ。今日の自分より、明日はもっと良い自分でありたい。自分よりもすごい画家が今現在も絵を描いて

圧倒される躍動感と表現力

人として初めて宇宙旅行に出た実業家・前澤友作さんが、宇宙ステーションに井田さんの作品を飾ったニュースは記憶に新しい。

強かつた父への反発心
鳥取県西部の日吉津村で4人兄弟の三男坊として育つ。父は東京造形大学の元教授で、「米子彫刻シンポジウム」(1988~2006年)を牽引した彫刻家、井田勝巳さん。年の近い次兄(現代作家・井田大介さん)の影響で、サッカーに夢中だった。「思えば小さいころから兄の真似ばかりしてましたね」と振り返る。

実家は当時、養蜂場を営んでおり、その片隅にあつた父のアトリエは、当時から井田の才能を開花させた場所だった。井田は、その才能をすぐに見い出す。描くことの楽しさに再び目覚めた井田さんは、画家になる未来図を胸に抱くように。そして藝大を受験するが、3度の不合格。「もう絵は描かない」と決め、地元の石屋に就職した。しかし、「ある日、骨壺を洗う仕事をしていた時、ふ

ふらしていました。見かねた親父が、ある日油絵の道具を買ってきて、絵画教室にでも行ってこいと言つてくれたんです」

才能が開花、つかんだ運

「この子は大物になる」。清水さんは、その才能をすぐに見い出す。描くことの楽しさに再び目覚めた井田さんは、画家になる未来図を胸に抱くように。そして藝大を受験するが、3度の不合格。「もう絵は描かない」と決め、地元の石屋に就職した。しかし、「ある日、骨壺を洗う仕事をしていた時、ふ

鮮烈な色彩、躍動感あふれる力強い筆致。絵筆のみならずパレットナイフも用い、大胆な表現力で見るものを圧倒する。井田幸昌さんは東京藝術大学(以下、藝大)在籍当時から、さまざまな賞を受賞するなど頭角を現し、2022年にはスペイン、フランスでの個展を開催。国内外で注目を集める現代アートの寵児だ。日本の民間

工は、子どもたちにとつて格好の遊び場だった。井田さんが絵筆を握るのは自然の流れのようだが、當時は、「芸術家になど単純にりたくないかった」という。仕事に没頭しすぎる父への反発心からだった。

気持ちに変化が訪れたのは、絵画教室の恩師・清水芳武さんとの出会いだ。

「中学の時から登校拒否になり、通信制の高校に入つたけれど、やりたいことも見つからず毎日ふらふらしていました。見かねた親父が、ある日油絵の道具を買ってきて、絵画教室にでも行ってこいと言つてくれたんです」



「Leo」(2018年、2273×2273mm)★



「Artist」(2017年、1303×1303mm)★

いに『いつか人は死ぬんだな』との思いがリアルに迫ってきて。一度きりの人生、このまで後悔しないのか」と。石屋の親方と父に頭を下げ、4度目の挑戦、無事艺大に合格した。

そして在学中の2016年、新

進作家の登竜門ともいわれる「VOCA展」に参加して世間の注目を集めることに。また、当時、株式会社ZOZOの社長だった前澤さんが募ったコンペで賞を受賞。前澤さんと審査員だった彫刻家・名和晃平さんが井田さんの才能を評価してくれたことが、知名度が上がるきっかけとなり、次のステージへの流れを生んだ。



豊かな発想がコラボ



KAJI CURRY (カジカリー)

所 鳥取市扇町138

営 11時～14時 (要予約、11時～、12時～、13時～の入れ替え3部制) ※予約受付はInstagramのDM
(<https://www.instagram.com/kajicurry/>) または、spicykajicurry@gmail.comへ

予約受付は前日15時～当日10時30分。返信にて受付完了。Instagramのストーリーズで空席紹介。

休 土曜、日曜、月曜、祝日

扉を開けた途端、フワッと刺激的な香り。目に飛び込むのは壁に並ぶ鳥取民藝の器。好きな器を選び、辛味や量をリクエストすると、店主・梶川哲秀さんによる『本日のカレー』のプレゼンテーションが始まる。聞いていると、期待感がどんどん膨らんでいく。

運ばれてきたのは彩り鮮やか、具材あふれるひと皿。主役は、「平尾とうふ店」(鳥取市河原町)の豆腐と、鳥取の漁港で水揚げされたマグロなどの漬けだ。

ひと口頬張ると広がるフレッシュなスパイスの風味、サラリとした質感のルーも舌に心地よい。湯豆腐にした絹ごし豆腐は、味わい濃厚で実になめらか、カリッと香ばしい油揚げや、

ハワイの伝統料理「ポキ」に発想を得たという漬け…。それぞれ単体の料理としても完成されているが、ルーに混ぜ合わせると新たな味の扉が開ける。

「20代の頃、スリランカカレーに出合い、複数のルーや料理を混ぜて自分の味を作るところに魅力を感じた。ベースは鰹節に似たハガツオの乾物で、だから日本人の舌にも馴染む」

それをヒントに、梶川さんはルーに地元のアゴ(トビウオ)入り鰹出汁を使用、味噌を隠し味にした。ライスは県特産の「星空舞」、野菜ももちろん県産。カレーというスタイルで表現された鳥取の素材の魅力が一度に味わえる、贅沢な逸品だ。

文／日高 むつみ 写真／田中 良子

レトロモダンな雰囲気が人気の2階のベッドルーム
(ゲストハウス toco.toco米原邸)

最初に手掛けたのは、自身の母校である旧真庭市立上田小学校を利用するプロジェクト。廃校から地域づくりを考える一般社団法人地域支援機構「サトビト」のメンバーとなり、元音楽室を改修したゲストハウスをオープンさせた。学校に泊まるワクワク感が味わえると人気で、八角形の多目的室を改修した屋内グランピングも新設されている。

倉吉市の白壁土蔵群の町屋を改装した「ゲストハウス toco.toco 米原邸」は、昭和元年に建てられた家屋で、『大正ロマン』な空間に浸れる。グループや家族、一人旅の客に人気だという。他にも倉吉市内のカフェと三朝町の旅館の運営を受託しており、それぞ



「一人一人の希望に合わせたプランを考える作業は楽しい」と芦田さん

洒落たレストランのような1階のリビング
(ゲストハウス toco.toco米原邸)

株式会社 エモーションズワーク

代表取締役 / 芦田 倍芳

設立 / 2019年

資本金 / 150万円

所 倉吉市伊木220 ジャストビル2階

TEL 0858-24-5895

WEB <https://www.tocotoco.fun>

ひつそり暖簾を出す居酒屋の「だし巻き玉子」をお勧めし、時には一緒に食事をしたことも。「パンフレットやネットでは絶対に手に入らない情報を伝えると、旅の価値は一気に高まる」と話す。

芦田さんが目指すのは、お客様の要望を全て叶えるコンシェルジユではなく、「旅人と共に考え、旅をつくっていくパートナー」だ。迎える側は『来ていただけてよ

うこそ』、訪れた側は『迎えてくれてありがとうございます』というのが本来の旅の醍醐味。これからも旅の面白さをいろいろな形で発信しながら、『本当のおもてなし』を追求していきたい。芦田さんのチャレンジは続く。

文／井田裕子 写真／長谷裕太郎



完成度を追求し、自主練も



顧問の山田教諭

麒麟をかたどった獅子が地をはう
ようにダイナミックに舞い、赤い衣
装の獅々がゆつたりと獅子をいな
す。麒麟獅子舞は鳥取県東部、兵庫
県北部に江戸時代から伝わる伝統芸
能だ。舞や囃子、衣装、獅子頭の形
状などは地域や神社によって異な
り、今も季節の祭りには麒麟獅子舞
が見られる。

智頭農林高等学校の郷土芸能部
は、地域の伝統芸能の継承を目的に
1995年に創部された。現在の部
員は1、2年生の7人。麒麟獅子と
獅々は2年生、囃子を1年生が担当
し、代々受け継いできた。「楽譜な
どはなく、先輩部員の指導や過去の

一方で激しい動きではないが、
ゆつたりとした舞は体幹が求められ
るために、走り込みや筋トレ、柔軟運

若さあふれるダイナミックさ

動が欠かせない。特に獅子頭は5、

6回にもなるため、獅子頭役の福岡

颯真さん（2年生）は帰宅後も自主

練習に励むという。加えて、獅子の

後方、浜田侑治（2年生）さんとび

たりと息を合わせるには、ひたすら

2人で練習を積み重ねるしかない。

「意見が合わず、けんかすることも

ある」とお互い苦笑するが、それも

眞剣さゆえ。獅子が生きているかの

ような完成度は見事なものだ。

大会以外でも地域の祭りや催して

たびたび披露しているが、舞台のサ

イズはそれぞれ異なり、屋外の場合

もある。山田教諭は「現場ごとの対

応は大変だが、みんなよく頑張って

くれている」と温かく見守る。部員

たちも「地域の人や家族、学校のみ

んなに見てほしい」と日々

汗を流し、各地で芸能

の発信に力を注ぐ。

日本の伝統文化、絶やさない 心意気光る BUNKA部



日本の伝統文化を絶やさまいと奮闘する高校生たちがいる。
運動部と比べ、目立たない印象の文化部だが、
洗練された技を追求するため、高い志を持って
日々練習に励む姿は輝いている。
仲間とともに情熱を傾け、熱い青春を送る日々を追った。

伝統の麒麟獅子舞にオリジナルの振り付けを加え、
ダイナミックに舞う生徒たち

智頭農林高等学校
郷土芸能部
【麒麟獅子舞】



■ 鳥取県立智頭農林高等学校
所 八頭郡智頭町智頭711-1
□ 0858-75-0655
■ <https://www.torikyo.ed.jp/tizuno-h/>

文／倉恒 弘美 写真／田中 良子・萱野 雄一



和気あいあいの雰囲気も、いざ練習に入ると
真剣なまなざしで札を払う音を響かせ合う

仲間とともに切磋琢磨し成長

で集まれない日もあり、一人でもできる『払い練』などに取り組んできました」と話し、活動制限の中で一人一人が集中して行つてきた。鳥取県内は競技かるたの指導者が不足しており、外部から指導者を招くことが難しい。このため先輩や経験者がアドバイスしたり、部員同士で教え合ったりして自分たちの力で技術を磨いている。顧問の藤田有希子教諭は「指導者がいれば一番ですが、それでも部員たちは『自分たちでやる』覚悟で入部している。せめて練習や試合などの環境はきつちりと整えてあげたい」と、前任者や県内の経験者に相談して、部員たちをサポートする。

卒業生の中には、地域の子どもに指導したり、有段者となり大会に出場したりする人も現れており、着実に伝統文化の継承へつながっているようだ。

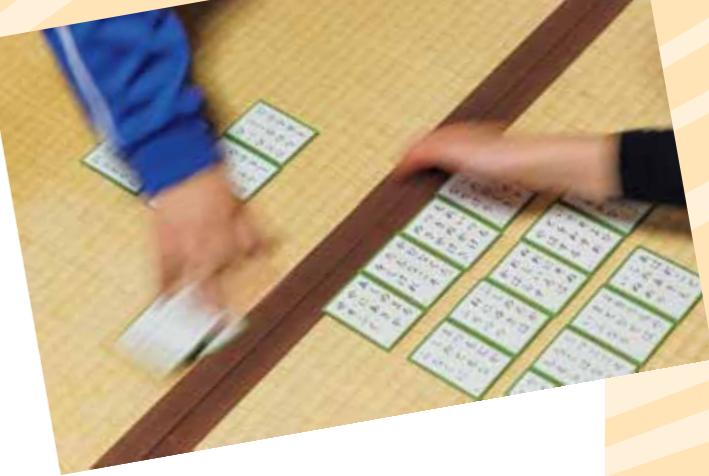
■ 鳥取県立米子南高等学校
所在地: 米子市長砂町216
電話番号: 0859-33-1641
URL: <https://www.torikyo.ed.jp/yonagom-h/>

畠の上でぶつかる気迫の攻防

大会では1日2～3試合は当たり前、多い日は4試合こなすこともあります。普段の部活動も、練習とはいえ日々、真剣勝負だ。読み上げ機から「上の句」が流れると、目にも留まらぬ速さで勢いよく「パンッ！」と「下の句」の札を払う。想像以上の気迫が漂う会場。壁には「記憶力・集中力・かけひき・瞬発力・メンタルの強さ」の文言が、「強くなる要素」として掲げられる。

98年の全国高等学校総合文化祭鳥取大会を機に創部して以来、中国大會や全国大会の常連校だ。「かるた」というと、正月遊びやのどかさを思いい浮かべる人が多いと思うが、競技かるたは「畠の上の格闘技」と呼ばれるほど激しい攻防が繰り広げられる。

顧問の藤田教諭(写真右)と部員たち。
前列左から3番目が部長の重田さん



米子南高等学校

かるた部

【競技かるた】



98年の全国高等学校総合文化祭鳥取大会を機に創部して以来、中国大會や全国大会の常連校だ。「かるた」というと、正月遊びやのどかさを思いい浮かべる人が多いと思うが、競技かるたは「畠の上の格闘技」と呼ばれるほど激しい攻防が繰り広げられる。

普段の部活動も、練習とはいえた日々、真剣勝負だ。読み上げ機から「上の句」が流れると、目にも留まらぬ速さで勢いよく「パンッ！」と「下の句」の札を払う。想像以上の気迫が漂う会場。壁には「記憶力・集中力・かけひき・瞬発力・メンタルの強さ」の文言が、「強くなる要素」として掲げられる。

大会では1日2～3試合は当たり前、多い日は4試合こなすこともある。普段の部活動も、練習とはいえた日々、真剣勝負だ。読み上げ機から「上の句」が流れると、目にも留まらぬ速さで勢いよく「パンッ！」と「下の句」の札を払う。想像以上の気迫が漂う会場。壁には「記憶力・集中力・かけひき・瞬発力・メンタルの強さ」の文言が、「強くなる要素」として掲げられる。

今年度の部員は3年生が引退後、1年生9人に。数年前に起こった競技かるたを題材にした漫画や映画ブームをきっかけに入部した人が多く、未経験からのスタートがほとんどだ。重田さんは「コロナ禍の影響

るという。1日を通して集中力を維持し、瞬時に反応するためには基礎体力も必要だ。部長の重田絢香さん(1年生)は「強い人より先に札を取りたり、敵陣の札を取れたりした時が爽快」と勝負の面白さを語る。



入部当時はほぼ全員が初体験のため、座り方から演奏の基礎までをひとつずつ学び、悪戦苦闘しながら合奏までたどりつく

第2顧問の波多野真由美教諭、部長の森さん、顧問の杉本教諭(写真左から)

指導者は地元の生田流の外部講師が3人。顧問の杉本由美教諭は「前任の講師からの紹介で代々の卒業生が指導してくださっており、ありがたい」と、長年の地域の協力に感謝する。

箏は流派によって箏爪や構えの向きが異なるうえ、同じ流派でも指導者によって教え方も変わるので、同じ系譜のつながりは財産だ。

地元に支えられ、受け継ぐ音色

譜は、まるで「暗号」だ。部長の森朱里さん（2年生）も未経験から始めた一人。「楽譜だけじゃなくて弦の押さえ方、弾き方、力の入れ具合が難しくて。最初は手にマメができました」と入部当初の苦労を振り返りつつ、「1年生の時に苦手だった『押さえ』ができるようになつてきて、うれしい」と、自分の成長を楽しむ。

指導者は地元の生田流の外部講師が3人。顧問の杉本由美教諭は「前任の講師からの紹介で代々の卒業生が指導してくださっており、ありがたい」と、長年の地域の協力に感謝する。

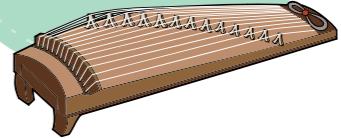
箏は流派によって箏爪や構えの向きが異なるうえ、同じ流派でも指導者によって教え方も変わるので、同じ系譜のつながりは財産だ。

合奏の編成は、十三弦の箏による一箏、二箏、さらに低音の十七弦の箏の3パートからなり、パートリーダーを中心に部員たちは日々練習に励んでいる。箏の合奏には指揮者がおらず、全員で息を合わせるのが難しい。さらに部活動の時間も以前より短くなり、限られた時間の中で集中して感性を研ぎ澄ませ、技術を磨く毎日だ。次回の県大会に向けて、新曲の練習もスタートしている。

生徒たちは、奏でる喜びと情熱を指先に込めて、1300年もの歴史を持つ悠久の音色をこれからも受け継いでいく。



米子西高等学校
箏曲部
【箏曲】



心に響く深さと凜々しさ

12人の部員がスッと背筋を伸ばし一斉に弦を弾いた瞬間、空気が震える。「お箏」といえば、独奏でゆったりと静かに演奏しているイメージがあるが、合奏の迫力やボリューム、深い音色の重なり、優雅な佇まいは凛として壯觀と言える。

米子西高等学校箏曲部は創部約70年の長い歴史を持つ。全国高等学校総合文化祭に県代表として何度も出場しているが、部員のほとんどが未経験からのスタートだ。県西部で唯一の箏曲部であり、「中学生の時か



子どもの頃から折り紙を折ることが好きで、和紙特集はとても興味深かったです。また毎号表紙がすてきで、そのシーズン中、部屋に飾っています。

(愛知県一宮市 常川 友子)

永本冬森さんのファンで手に取り、因州和紙でのさまざまな表現方法に、興味が沸きました。特に綿毛のモビールが愛らしかったです。また「この人」の桂文吾さん、スゴイ人ですね。

(鳥取県鳥取市 伊藤 英子)

ご縁があり「ふるさと来LOVEとっとり」に入会。学生時代に一度だけ訪れた鳥取県が、この1年でいぶん身近に感じるようになりました。誌面を通じて鳥取の芸術、伝統工芸、季節の移り変わりを楽しんでいます。

(東京都品川区 佐々木 麻里)

「おもしろ発見手帖」のソウルパンが面白かったです。素朴なパンと秀逸なイラストで、味を想像しながら読み込みました。マイフライ・サンドイッチ・ラスクを、鳥取でぜひ堪能したい!

(東京都台東区 高野 紗美)

「ここにこの人」で紹介された落語家・桂文吾さん。中学生で小文吾を襲名、俳優へ転身、劇団俳優を経て再び落語の世界へ。波乱万丈な人生に興味をひかれました。一落語ファンとして、ぜひ円熟した落語をお聴きしたい。

(広島県福山市 井西 康治)

「カメラアイ」の日南町の雲海。とても美しく、長く見入りました。コロナ禍の沈んだ気分も上がります。

(島根県出雲市 久谷 美恵)

『とっとりNOW』との出会いは、故郷の智頭町へ帰る高速バスでした。表紙の美しさに加え、紙も内容も厚いのに「無料」に驚き。今号の目玉はなんといってもソウルパンの亀井堂さん。昔ながらの素朴な味わいがたまらないサン・ドイッチですよね。

(奈良県河合町 岡村 智子)

■応募方法

下記の項目を記入し、ハガキ、電子メールまたはWEBの専用応募フォームでご応募ください。

- ① 希望の商品記号または商品名
- ② 掲載記事への意見・感想
- ③ 応募用クイズの答え
- ④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「voice」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。



●応募用クイズ●

Q 澤田廉三・美喜夫妻が別荘を建て、毎年夏に訪れていた岩美町の浜辺の名称は?空いている□に文字を記入してください。

浜

136号のクイズの答えは「因州和紙」

■応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220

鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)

「とっとりNOW読者プレゼント」係

メールアドレス: now@kouhouren.jp

応募〆切
2023.3/31
消印有効

A



牛骨炊出しスープ「白いおでん」

(480g・1人分)【5名】

鳥取和牛のテール、牛すじを一晩煮込んだ白湯スープのおでん。濃厚ながら上品な後味が特徴だ。令和4年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクールで総合グランプリ受賞。

問 株式会社 Ties Food-lab EN

☎ 0859-21-9180

池平徹兵オリジナル

絵葉書セット(5枚)

【5名】

『とっとりNOW』の表紙を描く画家・池平徹兵さんの絵葉書セット。四季折々の自然を背景に動植物たちが生き生きと輝く。この絵の世界に飛び込んでみたくなるような作品の数々。

問 ヨロコビto Art Shop

WB <https://www.yorocobito.com/>

B



C



ガレット・デ・ロワ(直径18cm)【3名】

サクサクのパイ生地にアーモンドクリームが入った伝統菓子。中に入った小さな陶器の人形が当たれば幸福になるとの伝承がある。同菓子のコンテスト日本大会で2度優勝。

問 パティスリー ポンヌノ

☎ 0857-30-6948

果的に人々の共感を得た。そして数々の困難にもめげない…カッコいい! ブラボー! ▼強さの源は、「本物の愛」か。青木富貴子さんの著作(13頁)でもそう分析されており、同感だった。美喜を深掘りし、その心情に寄り添った青木さんの表現の数々は、当時の様子がまるでスクリーンに映し出されたかのようで、胸を打たれ、「愛」の意味を改めて考える機会にもなった。▼ふと、昔流行ったポップス「愛は勝つ♪」が頭に浮かび、気付く。あれ、この歌詞、案外深いな…。【Hi】

《企画・編集・発行》鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

《制作》株式会社シセイ堂デザイン
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122

0857-26-7086

0857-29-6621

『とっとりNOW』はWEBでも見られます。

WEB限定のコラム「すべての道は鳥取に通ず」「菌活で広がるきのこの世界」を連載中。「満ぶくよくぱりグルメ皿」が4月にスタート!

